

不要入れ歯で難病支援

入れ歯に使われている希少金属をリサイクルし、難病患者や開発途上国の子どもたちを支援しようと、NPO法人「県難病連絡協議会」(大津市京町)が、県内8か所の病院に「不要入れ歯回収ボックス」を設置した。

県内病院8か所に回収箱

入れ歯には、歯を留めるクラスプ(バネ)に金や銀、パラジウムなどの金属部品が含まれ、総入れ歯(一本)に金や銀、パラジウムなど、一つあたり約2500円になる。



部品換金収益を患者へ 途上国にも

同協議会が回収分を取りまとめ、「日本難病・疾病団体協議会」(東京都豊島区)を介し、NPO法人「日本入れ歯リサイクル協会」(埼玉県坂戸市)に送る。金属業者に渡して換金され、必要経費を除く収益が、国内の難病患者支援と、日本ユニセフ協会を通じた途上国支援に充てられる。

途上国の場合、総入れ歯一つで、毛布8枚か予防接種用の注射針250人分の援助ができるという。

部分入れ歯でも良いが、金属部品の付いていないものは対象外。熱湯か入れ歯洗浄剤で消毒し、ビニール袋に入れて持ち込む。

今後、各市役所や市民センターなどにも設置場所を増やしていく予定。葛城貞三・県難病連絡協議会常務理事は「みなさんの支援で、病气や飢えで苦しむ人たを救いましょう」と呼びかけている。問い合わせは連絡協(077・510・0703)。

歯科受付に置かれた入れ歯回収ボックス(大津市民病院で)